

## 令和6年度 第1回千歳市公立大学法人評価委員会 議事要旨

1 日時 令和6年7月16日(火) 13時20分から15時30分まで

2 場所 千歳市役所庁議室

3 出席者

【委員】 委員長 馬場 直志  
委員 小川 恭孝  
委員 福村 景範  
委員 宮崎 知宏  
委員 千葉 崇晶

【公立大学法人公立千歳科学技術大学】

宮永理事長 井手副理事長 米澤事務局長 林事務局次長  
佐藤課長、田中課長 河原木係長

【千歳市】 企画部 石田部長、米澤次長

公立大学政策課 倉島課長、増田係長、中嶋主事

4 傍聴者 1名

5 会議次第

- ・開会
- ・議題

- (1) 公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度業務実績報告について
- (2) 今後のスケジュールについて
- (3) その他

- ・閉会

6 会議の概要

(1) 結果概要

議題(1) 公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度業務実績報告について

公立大学法人公立千歳科学技術大学(以下「法人」という。)から、令和5年度の業務実績報告書が評価委員会に提出された。評価委員会において、科技大の中期計画の実施・達成状況について、ヒアリングを行った。

議題(2) 今後のスケジュールについて

事務局が今後の評価スケジュールを説明、質疑応答はなく了承された。

議題(3) その他

なし。

## (2) 議事概要

議題（１）公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和５年度業務実績報告について

法人による説明を受けたのち、ヒアリングを行った。質疑応答及び審議内容は次のとおり。

※ 法人との質疑応答にある資料のページ番号は、「資料１ 公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和５年度業務実績報告書」のページ番号である。

### ■全体評価（指標の状況）

#### 《財務諸表について》

【委員Ａ】 昨年度の当期総利益 449,042,620 円で、そのうち臨時利益が 373,335,271 円となっているが、これは何か。また、令和６年度の予算編成では目的積立金 134,839,000 円を取り崩し、収支均衡を図ったとあるが、これは目的積立金を取り崩さなければ収支均衡にならないという認識でよいか。

【法人】 地方独立行政法人会計基準及び地方独立行政法人会計基準注解が令和４年に改訂され、公立大学法人のみ資産見返負債の計上が廃止となった。前年度末に計上していた資産見返運営費交付金及び資産見返寄附金の合計 373,335,371 円を令和５年度の臨時利益として期初に振り替えている。そのため、一見大きく利益が生じたように見えるが、実際は 449,042,620 円のうち 373,335,371 円は従来からの負債計上分である。

次に、委員からも指摘のあったとおり、目的積立金の取崩がなければ運営できないという状況である。自主財源で不足する額を運営費交付金として交付を受けているが、大学事業の拡大や想定以上の物価・人件費の高騰により、運営費交付金が不足している状態にあり、不足分を自主財源のうち、目的積立金の取崩により賅っている。

#### 《認証評価機関の評価について》

【委員Ｂ】 13 ページに認証機関での認証評価を受審し、大学評価基準を満たしているとの評価を受けたとあるが、評価委員からの指摘事項があれば教えてほしい。

【法人】 評価された項目は、非常に地域社会に溶け込んでいるという点であった。また、SNC 構想等研究支援の手厚さも評価された。指摘事項としては、大学院生の数が収容定員を大幅に超過していることから、是正すべきという指摘があった。この是正のため、建物の拡張及び大学院の定員枠の拡大を行うところである。

### 項目別実績

#### ■教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

##### 《人材育成について》

【委員Ｃ】 現在の計画は順調に進んでいるという印象を受けた。一方で人材育成について、いかに優秀な人材を育成するかが今後の日本に必要なようになってくると考える。非常に難しい課題ではあると思うが、科技大の教育体系は、優秀な人材を育てる仕組みになっているのか、設備の充実具合はどうか等、一歩進んだ内容を次回の計画に盛り込んでいただきたい。

【法人】 第２期中期計画については、項目を策定し、具体的な内容をこれからまとめるところである。本学大学院の博士前期課程は他の公立大学と比較して定員数が非常に少ないため、現在、定員増のための手続きを行っている。また、施設も不足していることから、文部科学省の補助金を申請したところ、この度採択され、来年度以降、建物の建築を実施する予定である。このように、人材育成のため

の土台が固まりつつあるという状況であるため、第2期中期計画において、いただいたご意見をしっかりと反映させていきたい。

#### 《大学院生の英語によるプレゼンテーションについて》

【委員B】 23 ページに研究科博士課程の大学院生の英語による学会等への発表実績を本中期計画期間中に100%にするとあり、令和5年度において達成しているが、これは表記どおり全員が英語で発表したということによいか。

【法人】 本学で開催する国際会議は全て英語で発表することとしており、参加した学生は必ず英語で発表している。また、海外の学会に参加し発表する学生も英語で発表し、その他の学生には学内で発表の場を設け、英語で発表してもらうことで100%を達成した。

#### 《学生の課題と対策について》

【委員D】 21 ページの中期計画に、社会人基礎力及び学び続ける力の育成とあるが、学生の実態というのはどういうものか。特に言語リテラシーの強化とあるが、学生のどこに課題があり、どのように対策するのか。また、プレースメントテストを実施することで何を測ることができるのかを教えてほしい。

【法人】 言語リテラシーの授業ではレポートや論文の作成方法を日本語能力の一つとして教えている。AIの発展により、キーワードを入力するだけで文章が生成されるが、そのまま写すのではなく、自身で考えレポートとしてまとめるように指導する必要があると考える。プレースメントテストについては、学生の語学能力の経過測定を目的として実施している。学生の語学能力はこれまで入学当初にしか測っていなかったため、令和6年度予算に組み込んだものである。

【委員D】 レポートの作成方法についてとあるが、学生はどのようなことを苦手としているのか。

【法人】 おそらく、起承転結についてであると考え。論文やレポートの作成方法が入学時は分からないため、基礎的な部分を指導していると考えられる。

#### 《入学者の居住割合について》

【委員E】 学生の内市内居住について説明があったが、入学者の居住地はどのようになっているか。

【法人】 令和6年度の入学者のうち、道外からの入学者は全体の5%であった。また、市外の通学可能な範囲で居住している者は入学者全体の3分の2を占めている。道外の学生については例年13%ほどを占めているが、今年は5%にまで減少している。その要因として考えられることは、予備校が大学共通テストをもとに合否判定を予測するサービスにおいて、本学と東北のある大学との難易度が同程度となり、これまでであれば東北から受験していたレベルの受験生が減少したことが挙げられる。今後、入学難易度が変われば、東北地方からの入学者も見込まれるのではなかと考えている。

### ■地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置

#### 《地域貢献について》

【委員C】 大学の基本目標に、人材育成と地域貢献を掲げている。特に地域貢献のレベルは相当上がっていると思うが、この取組は大学にとってどのようなメリットがあるのか教えてほしい。

【法人】 大学としては、ラピダス社が来ることで地域貢献のみならず、全国規模の話になっているため、自然と研究力や国際性が向上していると感じている。また、学生については、地域の会社とプロ

ジェクト研究を実施し、半年ほど一つのテーマで研究開発を行っている。プロジェクトの最初の段階と比較して最後の発表は非常に良くまとめられており、学生が社会人と接することは人材育成として有意義であると考えている。

【委員D】 技術で地域に貢献するというのが目標に記載されているが、その中の学内ベンチャー企業について、何か効果が出ているのか。

【法人】 今年1月に修士の学生3名と千歳市内の病院の院長で会社を発足させ、オンライン事前診療システムを始めている。ただ、起業に関する取組は起業を促すものではなく、そのような考え方で将来仕事をするように指導している。

【委員D】 新会社は学生が社長を兼務しているという認識でよいか。

【法人】 そのとおりである。また、セミナーにおいて起業家精神を養うよう取組んでいる。しかし、アンケートを実施したところ将来への不安を懸念する感想が多く、今後、経済環境も見据えていく必要があると考えている。

## ■業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

### 《新規採用について》

【委員E】 教員の新規採用者が4名とあり、そのうち退職者の補充として3名採用されていることから合計1名増加している。これは半導体関係の強化を目的とした人事を行っているのか。

【法人】 現在、文部科学省からは半導体ではなくDX、GXを強化するよう指導されている。しかし、千歳は次世代半導体が重要な項目になっていることから、半導体分野の新規人材の募集も行っているところである。

### 《FD研修について》

【委員D】 教員の人材育成の記載があるが、学生自体の変化やコミュニケーションの取り方の変化を踏まえたうえで、どのような課題や対策が挙げられるか。

【法人】 FDにて重要視しているのは、ハラスメントと情報セキュリティについてであり、これらは毎年2回必ず研修を行っている。

【委員D】 研修での講師の教え方について変化はあるか。

【法人】 講師によって差異はあるが、一方的な説明授業だけではなく、グループワーク等アクティブラーニングの取組が行われている。

## ■財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

### 《外部資金の調達等について》

【委員C】 外部資金の調達について、コロナの影響もあり、共同研究もやりづらいつという状況にあったと思うが、ラピダス社の影響で何か好転するものはあったか。

【法人】 話題としては挙がるようにはなったが、数字としての実績にはなっていない。ラピダス社と共同研究の話をすることもあるが、ラピダス社は国の予算で動いている側面があるため、外部に資金を出せる状況にない。

【委員C】 では、資金獲得に対して、科技大が努力することはあるか。

【法人】 北海道大学において、共同で競争的資金を獲得しようという動きは日々行っているところである。

【委員E】 現在、東京大学で授業料の引き上げを行うとの話があるが、科技大においても実施することは可能か。

【法人】 実施することは可能であるが、そのためには千歳市の議会の了承が必要になってくる。しかし大学において、経済的な支援を希望する学生がここ数年増えていると感じている。他にも、授業料の確保のために休学する学生もいる。そのようなケースがある中で公立大学としては授業料の引き上げについては検討しない方がよいのではないかと考える。

【委員C】 財務諸表4ページの投資活動に関するキャッシュフロー中の施設費による収入が4億円ほどあるが、内容はどのようなものか。

【法人】 令和5年度の施設整備補助金と、令和4年度の施設整備補助金を千歳市から令和5年度中に受け取っているため、2年度分を合算した額となっている。

#### ■自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置

##### 《評価機関による承認までの期間について》

【委員C】 評価機関による審査の方法と要した期間について教えてほしい。

【法人】 5年度の初頭にポートフォリオを作成し、提出した。その後夏頃に、全国の大学の学長や副学長からオンライン上で面接審査を受けた。現地調査については、千歳市をはじめとしたステークホルダーに評価委員として実施したアンケートに基づき、再度、オンラインで調査を受けた。年末に概ねの指摘事項があり、直ちに改善できるものについては改善、報告を行った。また、改善に時間を要するものについては、適切に手続きを行うと回答し、令和6年3月に認証評価を受けた。

##### 《テレビCMについて》

【委員E】 科技大の広報についてであるが、関係者調査を分析したところ、テレビCMに期待した効果が表れなかったとあるが、この広報にどれだけ経費を要したのか。

【法人】 経費としては年間300万円ほどかかった。昨今の高校生は動画サイトを閲覧しており、テレビは見ないが、受験先については保護者が介入するというケースもあるため、実態は把握しながらもテレビCMを放送していた。しかし、実際のアンケート調査で数字として表れたために見直しを図り、テレビCMの放送を取りやめた。現在はこの経費を高校生の目に留まりやすいWEB広告に活用している。

#### ■その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

##### 《防災について》

【委員D】 災害事例についてはどのようなことがあったか。

【法人】 胆振東部地震にて修繕が必要な個所はあったが、それ以外には特に事例となるようなものは発生していない。

##### 《ハラスメントについて》

【委員E】 ハラスメントの問題は発生していないか。

【法人】 ハラスメント委員会は設置しているが、現在報告はない。しかし、ハラスメントは見えない

ところで起こるものなので、物理的な対応として、情報棟の研究室についてはガラス張りにしている。古い建物についてはそのような措置はできていないが、卒業研究を行う学生がいるところでは、極力ドアを開放するなどして、誤解を生じないようにする取組を行っている。

【委員E】 学生の相談窓口については承知したが、教職員の窓口は設置していないのか。

【法人】 ハラスメント窓口は、学生教職員すべて統一のもので設置している。

#### 《インフラ設備について》

【委員E】 昨今北海道も暑くなってきたが、エアコン設置状況はどうか。

【法人】 一部未対応の箇所があるが、今年10月までには整備する予定である。

### ■次期中期計画に対する質疑

#### 《学生の進路について》

【委員E】 大学院の定員拡大とあったが、卒業された学生がそのまま大学院に進むのではなく、特に優秀な学生は科技大をステップにしてさらに活躍したほうがよいのではないかと考える。例えば、他大学の大学院というのが考えられるがいかがか。

【法人】 非常に大きな影響があったのは、北海道大学が工学部の情報系の定員を50名拡大したことにあるが、令和5年度は、北海道大学に9名、東京工業大学に1名、大阪公立大学に1名と合計11名が他大学院に進学している。本学としては、優秀であれば他大学の大学院等、希望するところに行くよう指導している。

#### 《第2期中期計画の策定について》

【委員C】 経営上、物価の高騰や人件費の増額、その上授業料の変更もできず、市の補助金も潤沢に受けられないことを考えると、非常に厳しい状況になっていくのではないかと考えるがいかがか。

【法人】 今後の方針として、研究力向上のためには競争的資金の拡大が必要であり、科研費だけでなく大型の予算や企業との連携を充実させて研究費を獲得しようと考えている。将来的には18歳人口も減少する上に、国の予算が急に増えるとも思えない。また授業料の引き上げも見込めないことを考えると、いかに役に立つ大学であるかを企業に対して示す必要があると考える。

【委員E】 次期計画において、地域との貢献について、次世代半導体関連について記載する必要があると思うが、どのように取組もうとしているか。

【法人】 次世代半導体の研究や人材育成について、千歳市側も重要視していると考えてるので、それに合わせて取組みたいと考えている。

### 議題

(2) 今後のスケジュールについて

(3) その他

特になし